

ご提示いただいた「teramura_errors.csv」のデータに基づき、母語(国籍)別の誤用傾向の外観を整理・分析します。

資料には中国(台湾・香港含む)、韓国、インド、マレーシア、欧米諸国など多岐にわたる学習者の誤用が記録されており、共通する傾向と母語特有の傾向が見て取れます。

1. 中国語圏(中国・台湾・香港)

漢字圏の学習者は、表記や発音の揺れ、および助詞の機能過剰な使用が目立ちます。

- 発音・表記の誤り:
 - 清濁の混同:「ちょうと(ちょうど)」、「けれとも(けれども)」、「頑張て(頑張って)」など、濁音や促音の誤りが非常に多く見られます。
 - 長音・撥音の欠落:「デザイ(デザイン)」、「スピト(スピード)」、「いっしょうげんめに(一生懸命に)」といった誤用が散見されます。
- 文法・助詞の誤用:
 - 格助詞の選択ミス:「こちらに(で)生活して」、「いろいろなところ(ところ)は(に)」など、存在と動作の格(に・で)の混同が見られます。
 - 名詞修飾と品詞の混同:「面白いだ(だ)」、「偉大(な)」を「偉大でした」とするなど、ナ形容詞とイ形容詞、あるいは名詞の扱いの混同があります。
 - アスペクトの誤用:「のっています(のる予定、または乗った)」のように、状態を表す「~ている」の過剰般化が見られます。

2. 韓国語母語話者

韓国語は日本語と文法構造が似ているため、格助詞の直訳(負の転移)による誤用が顕著です。

- 格助詞の負の転移:
 - 「を」と「に」の混同: 韓国語の格標示に引きずられ、「地下鉄を(に)乗りません」、「日本留学に(を)決心して」といった誤用が生じています。
 - 「に」と「で」の混同:「韓国には(では)」、「お風呂には(では)」など、場所を表す助詞の使い分けに困難が見られます。
- 自他動詞の誤り:
 - 「流入した(流入させた／した)」、「梅雨か始め(まり)ます」など、自他動詞のペアの選択ミスが見られます。

3. インド・東南アジア圏(インド・マレーシア・インドネシア等)

この地域の学習者は、音韻体系の違いによる音声・表記の誤りと、語彙のカテゴリー誤認が特徴的です。

- 発音・表記の顕著な誤り:
 - 特有の音変化: インド人学習者による「こだつ(こたつ)」、「やさい(安い)」、マレーシア人学習者による「ぶぽう(文法)」など、母音や子音の置き換えが多く見られます。
 - カタカナの不備:「パスポト(パスポート)」、「パナナ(バナナ)」など、長音や特定の音節の表記ミスが目立ちます。

- 語彙・文法:
 - 不自然な語形成: マレーシア人学習者の「喜びがる(喜ぶ)」、インド人学習者の「かからない何数(回数)」など、語彙の不自然な組み合わせが見られます。
 - 存在・所在の格: 「部屋の中で(に).....あります」のように、場所の格助詞「で」と「に」を混同する例が共通しています。

4. 欧米圏(アメリカ・フランス・フィンランド等)

英語やフランス語などの非漢字圏学習者は、動詞・形容詞の活用や、文の構造的接続に課題が見られます。

- 活用の誤り:
 - 「旅行してした(していた)」、「ほしいければ(ほしければ)」、「わすらないで(わすれないで)」など、イ形容詞や動詞の活用規則の混同が顕著です。
- 助詞・接続の誤用:
 - 「むぎ(茶)におかわり(を)」、「幸福つくる(る)のために」など、目的語の格助詞の誤用や、動詞と名詞を結ぶ際の形式名詞の欠落が見られます。

全体的な外観のまとめ

提供されたデータを俯瞰すると、「格助詞(に・で・を)の混同」と「清濁・促音・長音の表記ミス」は、母語を問わず全学習者に共通する最大の誤用項目であることがわかります。その一方で、韓国語話者は統語的類似性ゆえの格助詞の直訳、中国語話者は語彙や品詞概念の干渉、非漢字圏話者は複雑な活用体系の混乱が、それぞれの誤用の背後にある主要な要因であると分析できます。